

令和 7 年度 川西市介護度改善インセンティブ事業に係る
取組事例報告書

さぎそう園デイサービスセンター

〇はじめに

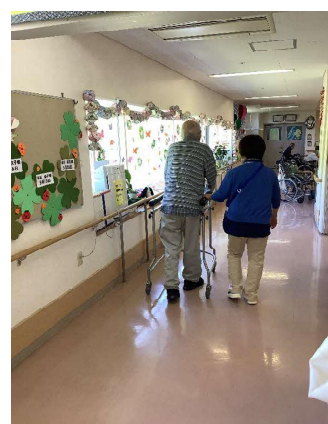
さぎそう園デイサービスセンターは、介護保険の目的である「自立支援」に沿って、事業所の目標を掲げ、職員一同意識を一つにして、常にご利用者様の日常生活動作の維持・向上を念頭に置いて取り組みを行っています。

個人が持つておられる力を、サービス提供の中で常に把握できるよう努め、その力が出来るだけ維持できるようにサポートさせて頂いています。日々取り組んでいます内容の一部を、今回ご紹介させていただきます。

〇機能訓練

当園は一般型のデイサービスとあって、リハビリのツールなどが充実した環境ではありませんが、フロア環境をうまく活用し、ご利用者様の残存機能を可能な限り使用して頂くことに注力することで、機能維持向上に繋がっています。

生活リハビリの強化も行い、職員が見守る安全な環境の中で、日常生活動作がリハビリに繋がるよう取り組みを実施しています。



○食事

食事についてですが、食べるのが消極的な様子が見られれば、器を軽量のモノ・小さなサイズに変更する等、提供方法の工夫をしたり、すぐに食事中に手が止まってしまう場合も、都度声掛けを行い、可能な限りご自身で召し上がって頂くよう対応しています。



写真の方は、一口ごとにお箸や器を置いて食べることを止めてしまう方ですが、根気よく声掛けを行い、できるだけ自力摂取動作が続くよう対応しています。

具体的には、小鉢に移してご本人様の手に持って頂き提供することで、自力摂取動作を引き出すことができます。

一口で器を置いてしまいましたが、声掛けを行いながら、同様の促しを根気よく繰り返します。

○排泄

排泄についてですが、トイレまでの動線に馬蹄型歩行器等を使用し、歩きやすい環境を作ります。また、衣類の上げ下げにも留意し、さりげない見守りを続けます。

生活リハビリを充実させるため、あえてトイレと自席の距離を遠くセッティングし、往復の距離を長くしています。



馬蹄型歩行器使用



手すり使用

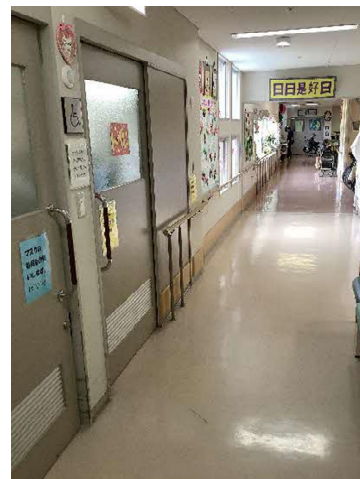
写真の方は、歩行がかなり不安定で見守りなしでは転倒リスクが高く、自宅でも何度も転倒されています。過活動膀胱で3分～5分間隔でトイレに行かれ、認知症もあり、行かれたことを説明しても、納得されることは少ないです。

移動に時間を要しますが、できる限り歩く環境を整え、職員はトイレまで付き添いを行い、車椅子は使用なく対応します。

馬蹄型で歩行されることが中心ですが、状況に応じて手すりでの移動も行っています。



自席付近からの導線
通路一番奥の右側がトイレ



トイレから自席への導線
通路一番奥の右側がお席

写真の通り、あえて自席とトイレ間の導線を遠くセッティングし、歩行距離を長く確保してリハビリに繋がっています。

入浴についてですが、一連の動作を見守りにとどめ、少しお困りの様子があれば、その状態を把握して声掛け、あるいは、出来る範囲のお手伝いをし、安全に配慮しながら行っています。

○入浴

洗身や洗髪、着脱衣、身体を拭く動作など、可能な限りご自身で行っていただけるよう個別のアプローチで対応しています。また、できることを妨げないよう意識し、ご自身のペースを尊重し、過ごしやすい環境や状況を整えることで、自力動作を引き出すよう取り組んでいます。

ご自身でできる喜びや、お世話になって申し訳ないという気持ちや、介護負担の軽減など、様々な環境においてプラスに繋がるため、継続的に取り組んでいます。

○まとめ

このように、できるだけご自身でして頂けるように見守りや、助言等を中心とした対応を根気よく行うことが個人の機能低下を遅らせ、維持、あるいは、向上に繋がられるのではと思っています。

そして継続して行っていることが、今回の賞に結び付いたことは職員も励みになっています。これからも継続して行ってまいります。

さぎそう園デイサービスセンター